

## 2-2 組織

2009年度に引き続き、2010年度においても複数の法人又は機関のそれぞれ役割分担の下、SPring-8は運営された。

### 1) 独立行政法人理化学研究所

SPring-8の設置者として、SPring-8の整備、運転・維持管理等及び利用者への放射光の提供に責任を有するとともに、SPring-8の放射光を利用した新しい領域を開拓するための研究や、常に最善の放射光を発生・供給するための技術開発等を実施した。

また、2010年度においては、量子ナノダイナミクスビームラインの整備を進めるとともに、ターゲットタンパクビームラインの稼働が開始した。

### 2) 財団法人高輝度光科学研究センター

独立行政法人理化学研究所から委託を受けて、SPring-8の運転、維持管理、高度化及び安全管理等を行うなど、SPring-8サイト全体に係る運営実務を実施した。

また、SPring-8の利用促進業務を行う登録施設利用促進機関として、SPring-8利用者の選定や、利用者に対する情報支援・技術支援等の利用支援業務を実施した。

### 3) 専用ビームライン設置者

国立大学法人大阪大学蛋白質研究所（1本）、国立大学法人大阪大学核物理研究センター（1本）、産業用専用ビームライン建設利用共同体（2本）、兵庫県（2本）、独立行政法人物質・材料研究機構（1本）、台湾・財団法人國家同步輻射研究中心（2本）、蛋白質構造解析コンソーシアム（1本）、独立行政法人日本原子力研究開発機構（4本）、株式会社豊田中央研究所（1本）、フロンティアソフトマター開発専用ビームライン産学連合体（1本）及び国立大学法人東京大学（1本）が、SPring-8に設置している専用ビームライン（計17本）を利用して、様々な放射光利用研究を実施した。

なお、2010年度においては、これらに加えて、国立大学法人京都大学、国立大学法人大阪大学核物理研究センター、国立大学法人電気通信大学が、それぞれ新たな専用ビームライン（計3本）の建設を進めている。

さらに、SPring-8サイト内に設置されているニュースバル放射光施設（兵庫県立大学）や兵庫県放射光ナノテク研究所（兵庫県）を加え、SPring-8サイト全体として最先端放射光研究に関するリサーチ・コンプレックスが形成されている。

研究調整部  
鈴木 昌世